
シンポジウム

炎症性腸疾患の病因と治療の進歩

Advance of Etiology and Treatment for Inflammatory Bowel Disease

第 578 回新潟医学会

日 時 平成 14 年 4 月 20 日 (土) 午後 2 時から
会 場 新潟大学医学部 有壬記念館

司 会 畠山勝義教授 (第一外科), 本間 照先生 (第三内科)

演 者 安保 徹 (医動物), 橋立英樹 (第一病理), 月岡 恵 (市民病院内科), 本間 照 (第三内科),
岡本春彦 (第一外科), 須田武保 (第一外科), 橋本 剛 (皮膚科), 徳永邦彦 (整形外科)

発言者 窪田正幸 (小児外科), 飯沼泰史 (小児外科), 小山 真 (桑名病院), 三輪浩次 (新潟県労働衛生
医学協会), 飯合恒夫 (第一外科)

司会 (畠山) それではシンポジウムを始めたいと思います。今日のタイトルは「炎症性腸疾患の病因と治療の進歩」でございます。広義の意味ではこの Inflammatory Bowel Disease はいろんな疾患が入ってくるわけなんですけど、狭義の意味では潰瘍性大腸炎と Crohn 病、これらはいずれもまだ病因が特定されていない疾患でございまして、厚生労働省の難病対策の特定疾患の一つにも挙げられている疾患でございまして。

今日は司会を第一外科のわたくし畠山と第三内科の本間先生で進めたいと思います。内科的立場のときは本間先生に司会進行していただきたいと思っております。

今日はそういうことで炎症性腸疾患の病因、病理診断の進歩、あるいは治療の進歩ということで内科的な立

場、外科的な立場からということと、それからこの疾患は腸管外合併症もあるということで特徴付けられている疾患でもありますのでこの腸管外合併症という面から、皮膚科の立場からと整形外科的な立場からということで、それぞれの専門の先生においでいただきまして講演をお願いしております。

シンポジウムではございますが、終わってから壇上に上ってその後討論というわけにはいきませんので、一人ずつ講演が終わったら質問を受けつけたいと思います。それでは本間先生、最初の進行をお願いします。

司会 (本間) それでは最初に炎症性腸疾患の病因と治療の進歩ということで、医動物の安保教授にご講演いただきます。よろしくをお願いします。